

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成一						
重点目標		・安心・安全に学習ができる環境づくり ・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	○基礎的、基本的な知識・技能を習得する ○学習指導の工夫・改善	・漢字・計算の繰り返し学習を実施することにより、基礎・基本の定着を図る。また、国語プリント集を購入し、学習の定着を図る。 ・図書の時間割は、1時間に1クラスの読書時間を確保し、読書活動の充実を図る。 ・家庭学習の習慣化をより一層図る。 ・「自主学習のすすめ」を作成し、自主的に学習することを促していく。 ・目標と評価を一体化させたわかりやすく、楽しい授業づくりの工夫をする。 ・電子黒板やホワイトボードを活用し、視覚的な支援を基にして、主体的な学びになるような授業作りをすすめていく。	・子どもの学力に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。 ・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。 ・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。	B	・子どもの学力に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員は、84%だった。全職員が、基礎基本の定着を図るために、朝の時間や休み時間を活用しながら取り組めた。また、読書を推進するために、週1校時に図書の時間を確保し、読書の充実を図った。国語、算数のプリント集を購入し、繰り返し学習で定着を図った。 ・家庭学習に関するアンケート項目では、「あてはまる」と回答した5・6年生は84%、教職員は100%だった。保護者は85%を上回らなかったが、昨年度より6%増えている。上記のアンケート項目と照らし合わせると、教師と児童との認識のずれがあり、児童の自尊感情の低さが気になる。 ・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上だった。	・購入したプリント学習を活用しながら、いろいろな問題に触れ、繰り返し行うことで基礎基本の定着を図る。また、学年で話し合いながら、児童の実態に合わせた授業の進め方を検討していく。 ・学習への意欲向上に向けた課題を工夫したり、自分で計画を立てて学習に取り組んだりできるように指導していく。また、取り組んだ課題について、可視化した評価を児童に返していく。 ・引き続き、研究推進部と連携しながら、ICT機器を活用したり、具体物や体験を取り入れたりしながら、学習したことが生活につながるよう実感させていきたい。	・さらに、朝学習を充実させ、基礎基本の定着を図って欲しい。 ・自主学習ノートの活用が高学年で進んだ。今後、下学年にも広げていって欲しい。
	児童の個性を生かす教育活動	○互いを尊重し合える仲間づくり ○思考力・判断力・表現力の向上	・互いの良さを見つけ、互いに伝え合うことをめざす授業づくりに取り組む。 ・授業にペア学習やグループ学習をとり入れる。 ・どの教科においても書く活動を取り入れることで、学力の定着をはかる。 ・研究する教科ごとにつけたい力の系統表を作成する。 ・伝え合うことについての学団ごとの目標をまとめる。	・誰とでも関わり合い、認め合うことができる。 ・「書く活動を取り入れる」ことについての教職員アンケートにおいて、「あてはまる」と答えた教師が80%以上。 ・研究する1教科について、重点的に指導する単元・教材とそこでつけたい力を表にまとめる。 ・系統表を作成し、伝え合い学び合うことについてのめざす姿を明確化し、授業実践によって検証する。	B	・伝え合い活動が充実し、子どもたちに「伝える力」「聴く力」が育ってきている。 ・書く活動については定着しており、子どもたちにも書く力が育ってきている。 ・研究する教科について年間を見通した取り組みをすることで、つながりを意識した指導ができた。 ・系統表を意識した実践ができたが、教科の枠にとらわれない共通の姿としたため、当てはまらない場合や意識しにくい場合もあった。	・引き続きペアやグループ学習などの充実に努めるとともに、主体的に学習に取り組むために自力解決の時間を確保した授業構成を考えていく。 ・書く活動については引き続きどの教科でも取り組んでいく。 ・学団ごとの伝え合う姿についての目標を吟味し、児童の実態にあったものになるよう検討する。	・「書く」活動が定着してきている。書くことは、思考の整理になるので、今後も継続して欲しい。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成					
重点目標		・安心・安全に学習ができる環境づくり ・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
特別支援教育の推進、充実	○計画的・組織的な支援体制の整備	・共に生き、ともに学ぶ学級・学校の実現を図る。 ・子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。 ・継続的な支援が行えるように、引き継ぎ体制を整える。	・特別支援教育のあり方や、様々な子どもの特性、ニーズについての研修を校内で行うと共に、職員の研修を促す。 ・校内支援委員会が効果的に機能するような組織作りを行う。 ・関係諸機関との連携をとりながら、クラス、学年、学校全体での支援体制を整える。	B	・校内の児童について生活指導、人権国際理解部と合同で研修会を5月と3月に行い、職員の共通理解と支援方法について研修を図った。8月には、合理的配慮と個別の指導計画について、特別支援学校から講師を招いて、校内研修会を行った。 ・教職員の評価アンケートで、「校内支援委員会が効果的に機能している」にあてはまると回答した教職員は、86%であった。 ・特別支援学校の巡回相談やコンサルテーションを利用しながら、個々の児童の支援方法について、改善を図った。	・合理的配慮や個別の指導計画について、研修を行う機会を作り、共通理解を図ると共に、組織的な支援体制の強化を行う。 ・特別支援学校の巡回相談やコンサルテーションを継続的に活用し、個々の児童の支援方法について、改善を図る。 ・継続的な支援を行うために、校内支援ファイルを教職員に周知し、活用を促す。	・来年度も特別支援学級に入る児童が多数居るので、ニーズに合った支援方法を工夫して欲しい。
	○個別の指導計画の作成	・支援の必要な児童への合理的配慮をふまえた個別の指導計画の作成	・ステップぐんぐんや引き継ぎファイルを作成する等、支援の継続を徹底する。 ・校内の支援における個別の指導計画について、保護者や関係機関と連携しながら継続して活用していくことを徹底する。		・教職員の評価アンケートで、「個別の指導計画に基づき一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努めている」にあてはまると回答した教職員は、84%であった。 ・支援の必要な児童に、ステップぐんぐんや校内支援ファイルを作成し、継続的な支援を引き継げるように促した。	・校内の支援における個別の指導計画について、保護者や関係機関と連携しながら継続して活用していくことを徹底させる。 ・校内や教室の基礎的環境整備を進めると共に、具体的な支援を進めていくために、教材や書籍の充実を行う。	

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成					
重点目標		・安心・安全に学習ができる環境づくり ・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	問題行動への指導・対応	○児童理解のための研修会の実施 ・研修会などを行い、職員間で児童理解を深めると共に、指導力の向上を目指す。 ・多様化する事案に対応できるよう、部会内での内容を学年会などで伝達し、共通理解を図る。 ・「いじめ対策基本方針」について、改めて共通理解を図る。 ・「いじめアンケート」調査を実施し、適切な対応を図る。 ・不登校傾向にある児童の家庭と連携を図り、関係機関につないでいく。	・毎月1回、生活指導部を開き情報交換を行い、問題行動については組織的な対応を行う。 ・年度初め、夏季、年度終わりに研修会を開く。 ・いじめ対策委員会を月1回開く。 ・児童アンケート「困ったときや悩んだとき、不安なときに、相談できる先生がいる。」と回答する割合が80%以上になる。 ・不登校傾向にある家庭と連携しながら、関係機関につなぐ。	B	・毎月の部会で定期的に情報交換を行うことで、問題行動を把握し、ふれあい相談員も含めて組織的に対応できた部分が多かった。 ・年度初めと年度終わり、夏期の研修会では、特別支援部と連携して目的を絞った話し合いができた。 ・情報交換と併せて、対策委員会を行うことで、いじめにあたるような事例にも早めに対応することができた。 ・児童アンケートの結果は、56, 8%だった。前年度と比べると減少している。 ・不登校対策共通実践事項を配布し、欠席が月3日以上の子童についての共通理解を行った。 ・不登校傾向にある児童については、家庭と連携しながら、関係機関につなぐことができた。	・困ったことや悩みを打ち明けやすい学級作りについて、言葉かけや子どもとの関わり方なども見直していく必要がある。 ・「相談できる先生」が、学級担任だけでなく、学年にも広げられるよう、学年全体で子どもと関わる意識を高める。 ・職員の資質や指導力の向上を目指して、カウンセリングマインド研修等、研修会を工夫しながら継続的に実施していく。 ・引き続き、欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者対応を密にしたり、職員間で情報を共有化したりして、組織的な協力体制をさらに構築する。また、関係機関と連携を行う。	・問題行動が減って来ていることは喜ばしい。不登校については、地域でも気になっているが、中々家庭に入ることは難しい。今後も学校と協力しながら減らしていきたい。
	規範意識の向上	○生徒指導体制の整備 ・生活目標や生活のきまりを守るように、日頃からの声かけや全校集会での話し、掲示物を工夫する。 ・学年会や部会などで、児童の生活の様子について振り返る機会を持ち、全教職員の意識を高める。	・保護者アンケート「子どもはあいさつなどの基本的な生活習慣が身につけている」と回答する割合が90%以上になる。 ・教職員アンケート「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合が85%以上になる。	B	・保護者アンケートの結果は、88.4%だった。ほぼ達成できているが、前年度の結果(89.2%)からやや減少気味である。 ・教職員アンケートの結果は、85%だった。ほぼ達成できた。	・学校だけでなく、家や地域でもあいさつなどに取り組むように指導する必要がある。 ・部会だけでなく、学年会でも子どもの様子を常に話し合える関係を作り、ささいなことでも報告しあうようにしていく。	概ね良好である。
	○思いやりの心を持つ子どもの育成	・学校教育活動全体を通し、一人一人の児童が道徳的価値を理解し、道徳的な実践意欲と態度の育成に取り組む。 ・副読本を活用して、効果的な道徳の授業を展開する。(わたしたちの道徳や実話や偉人の資料の活用)	・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている。」と回答する割合が90%以上になる。	B	・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれている。」と回答する割合が89.7%であった。	・来年度の教科化に伴い、指導計画を見直し、更に自尊感情や他人への思いやりの向上をはかる。	概ね良好である。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成一						
重点目標		・安心・安全に学習ができる環境づくり ・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	体力の向上	○体力づくり	・各領域における系統的な学年カリキュラムの整備を行う。 ・児童の体力向上を図る、学校行事を企画し実施する。	・体育時数の確保ならびに、学年内の教材研究を深める。 ・学校水泳ではクロール・平泳ぎともに25m泳げる児童を増やす。 ・体育大会、ドッジボール大会、なわとびタイムなどをきっかけに継続的な体力向上を目指す。	B	・研修会や授業研究などを通して学年ごとの教材研究を深めることができた。 ・各学年での達成目標を見直し、系統立てることで、指導内容が明確となった。 ・体育大会やドッジボール大会、なわとびタイムなどを通して、休み時間に外へ行く児童が増え、体力向上に繋がった。	・積極的に研修会を取り入れ、さらなる教材研究の発展を目指す。 ・研修会などを通し、児童の実態に即した指導方法を検討していく。 ・年間を通した継続的な外遊びの奨励をする。	・なわとびタイム、ドッジボール大会のイベントを通じて少しずつ体力が向上しているの、今後も頑張ってもらいたい。また、子どもたちが公園で遊ぶ姿がよく見られる。
		○健康な身体・心身の育成	・カリキュラムに応じた保健学習、保健学習参観、発達段階に応じた保健指導、「ほけんだより」を活用し家庭教育と連携した保健指導の実施により生活習慣の改善を図る。 ・懇談の機会を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療や視力低下児童の早期受診を呼びかける。	・睡眠、食事、身の回りの清潔等、基本的な生活習慣の改善を図る。 ・むし歯・歯肉炎・視力低下で一度も受診していない児童の解消をめざす。	B	・カリキュラムに応じた保健学習及び保健学習参観では、児童の発達の段階を考慮して学年でテーマを考え実施することができた。とくに6年の保健学習参観では、薬物乱用の害と健康をテーマに取り上げ、学年が事前にわかりやすい教材を探しをしたことで、児童が高い関心を持てた。 ・学校にある教材が古くなっている。 ・転地学習前に月経指導を行うことで、自分の体の変化に対する知識を深めた。また、月経指導をすることで、体の変化に対する不安を相談しやすい機会になった。 ・年間を通じて保健行事の際に、ミニ保健指導を行うことで、その月の保健目標の強化やその時季に流行するけがや病気の予防につながった。 ・ほけんだよりを配布するときに、児童と一緒に読み、ポイントをつかみながらほけんだよりを利用して保健指導できた学級もあった。 ・長期休業明けに「すくすくチェック」を実施し、生活リズムづくりへの意識化が図れた。 ・学校評価アンケートでは、高学年児童63.8%保護者98.7%教職員88%だった。 ・高学年児童のアンケートの結果が低い。 ・懇談の前までにむし歯や視力低下のため治療が必要な児童に対して治療勧告書を配布して、早期受診を呼びかけた。また、学期に1回ずつけんこうカードにより未治療の家庭にお知らせをした。 ・むし歯の治療率37.8% 視力の治療率61.5%	・学校保管の教材を新しくするものの選別をし、予算を見積もる。 ・定期的にはほけんだよりを発行するとともに、クラスでの保健指導の材料として使用できるほけんだよりの作成をめざす。ほけんだよりを配布する前に、職員朝礼などで職員に学級指導をしていただくよう伝達する。 ・すくすくチェック結果をもとに、週末に遅くまで起きていたり、平日より起きる時刻が遅い家庭の習慣を改善するように家族の協力が不可欠であることを呼びかけていく。 ・むし歯や視力の治療を、治療勧告書、けんこうカード、ほけんだより等、多くの機会をつかって呼びかけていく。 ・全く治療へいかない家庭へは懇談などの機会に個別に受診を勧める。	・概ね良好である。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成一					
重点目標		・安心・安全に学習ができる環境づくり ・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	○参観授業の実施 ・オープンスクールや授業参観で学校を公開し、学級懇談会、講演会などで情報を発信する。 ・人権担当者と協力して、講演会の参加人数が増えるように、講演者・内容等のお知らせのプリントを作成していく。	・年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施し、参加者が増えるような学級懇談会、講演会を工夫する。	A	・参観に関するアンケート項目で「あてはまる」と回答した保護者が95%以上であった。	・参加者が増えるために、学校の実態に合わせた講演会の内容に変更できないか検討していく。 ・ICTを活用し、児童の学校生活が見えるように紹介するなど、保護者が興味を持つような学級懇談会を工夫していく。	・概ね良好である。
	ホームページの整備、学校だよりなど地域への公開	・ホームページでタイムリーな情報を発信する。 ・多くの職員がホームページの更新作業に関わることができるよう、行事ごとに更新する担当を決める。	・各学年の活動の様子を月2回以上を目安に更新する。 ・行事や児童活動の様子について、役割を決めホームページに更新する。 ・近日中の予定や連絡をホームページで知らせる。	B	・各学年の活動の様子の更新を月2回以上を目標としたが行事の重なりなどもあり、達成できない月もあった。 ・月間予定の更新を継続して行うことができた。 ・警報発令時の自宅待機のお知らせや解除による登校のお知らせをHP上で素早く連絡することができた。	・引き続き各学年の活動の様子を月2回HPで更新できるように、学年内で役割を分担した上で担当から声かけを行うようにする。	・情報が届きにくい家庭もあると思われるので、様々なメディアを活用して積極的に学校情報を発信して欲しい。
	危機管理体制	○安全教育の取り組みと避難訓練の実施 ・各種危機管理マニュアルの作成。 ・避難訓練の実施。 ・防犯訓練の実施と、防犯設備の充実。 ・定期的な安全点検や登下校指導。 ・事故防止、交通安全の啓発。 ・交通安全教室の実施。	・年3回の避難訓練、年一回の防犯に関する研修を実施し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身につける。 ・研修を行い、職員の緊急時の対応や連絡方法について理解を深める。 ・年16回の登校指導、年10回の下校指導を行う。 引き継ぎノートを活用し、通学路の安全についてや、児童の登下校の様子について指導を行う。 ・学校周辺の事故の連絡などを行い、危機意識を高める。	B	・計画通り年3回の避難訓練や年1回の不審者対応を想定した職員研修などを計画・実施することができた。 ・肢体不自由児の避難方法の見直し。 ・緊急時に、子どもたちが教室の鍵を施錠して身を守るよう指導を行うようにした。 ・非常ベルがなったらトランシーバーの電源を必ず入れるという約束事を決め、トランシーバー利用に対する意識を高めることができた。 ・引き継ぎノートを活用することで、危険箇所や注意事項について職員間で共有することができた。 ・自転車安全教室(3年)や全校集会等を通じて、交通安全に関する子どもたちの意識の向上を図った。	・様々な事案に対応できるよう、訓練の内容を見直していく。 ・毎年避難方法について見直しを行い、その児童に合った一番安全な方法を年度当初に話し合う。 ・トランシーバー等の備品の充実に向けて、引き続き職員間での備品の活用と周知を呼びかけていく。 ・自転車の安全な乗り方について、継続的に指導を行っていく。 ・地域で行っている自転車安全教室などと連携し、地域全体で自転車のマナーについて意識が高まっていくよう啓発していく。	・近隣でも児童の死亡事故があり、憂慮している。自転車安全教室など、定期的を実施すると同時に、大人向けのマナー教室なども必要である。
教育環境の整備	○学校教育環境充実のため ・清掃用具の点検・充実。 ・清掃用具の見直しを行い、その場にあった用具を使う ・委員会活動との連携。 ・職員作業として、周辺環境の整備。	・清掃用具の定期的な点検と補充等を行う。 ・用具の正しい使い方の指導を引き続き行うとともに、壊れたままの清掃用具を0にする。 ・清掃活動を通して、気持ちよく生活できる教育環境が維持できるように啓発活動を行う。	B	・委員会活動と連携し清掃の点検をすることができた。 ・清掃場所にあった清掃道具の見直しを行った。 ・保護者アンケートからトイレの環境について指摘があった。	・清掃用具の修理や見直し、学校周辺の清掃、整備を継続して行う。 ・壊れたままの清掃用具が0になるよう声かけを続ける。 ・年度始めに清掃の際に気をつける箇所を提案する。	・概ね良好である。	

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学ぶ子どもの育成					
重点目標		・安心・安全に学習ができる環境づくり ・学力の向上と指導力の向上 ・社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ・一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ・健やかな心と健やかな体づくり ・家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
教職員の資質向上	教職員の研修の充実	○授業の質を高める授業研究 ・校内研修として年1回以上授業を公開する。 ・授業の質を高めるための教材研究や研修、研究を充実させる。 ・主体的に学習に取り組むために、「めあて」「ふりかえり」を工夫する。	・全教員が年1回以上授業を公開する。 ・年9回の校内研究と、随時スキルアップ研修を行う。 ・主体的に学習に取り組むために、「めあて」「ふりかえり」を工夫する。	B	・一人一授業を行った結果、参観者が増えてきている。コメントカードを活用し、お互いに高めあおうとする職員集団になりつつある。 ・市内研究発表会に向けて、学団研究・学年研究を充実させ、授業力の向上にいかすことができた。 ・校内の公開授業4本、市内研究発表授業3本を行ったほか、夏季研修や全体研究会における授業の検討など、研究活動を充実させることができた。 ・天神川小学校のめざす授業づくりの型と、「めあて」「ふりかえり」についての考え方が見えてきた。しかし、更なる吟味が必要である。	・全教員が年1回以上の授業公開を行い、コメントカード等で教師間の切磋琢磨する姿をめざす。 ・引き続き年9回程度の校内研究を行い、授業の質の向上をめざす。	・各学年の授業において、「めあて」「ふりかえり」が提示されていた。また、ICT機器の活用も進んでいる。さらに、「わかる授業」、「楽しい」授業を進めて欲しい。
学校の現状を踏まえた教育課程・組織運営	教育目標の設定	○全教職員の学校目標達成に向けた参画 ○児童の現状を踏まえた教育課程の編成	・学校教育目標に向けたPDCAサイクルに基づいた教育活動を実施する。 ・新学習システム等を児童の実態に応じて円滑に運用する。	A	・学校教育目標に関して、「あてはまる」と回答した教職員は88%だった。 ・学校教育目標を達成に向け、全教職員の共通理解が深まり、学校教育活動を円滑に実施することができた。 ・教職員の編成に関するアンケート項目で「あてはまる」と回答した教職員が90%以上であった。本校の現状を踏まえた教育課程を編成し、実施することができた。	・今後も、教育課程部と研究推進部、生活指導部が連携し、知・徳・体のバランスの取れた児童を育成するために、現状を踏まえた学校教育活動を実施する。 ・来年度より新学習指導要領の移行期間に入るため、教科の内容変更や時数の変更により、教育課程の再度見直しが必要である。児童の負担がないように行事のバランスや時間割の作成を行っていく。	概ね良好である。
	校務分掌等の連携	○一人一役の校務分掌、職場の同僚性	・学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化し、連携して学校教育活動を実践する。 ・部会を活用し、担当者だけの負担にならないよう、分担していく。	B	・校務分掌に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した教職員が85%を達成できなかった。	・仕事に偏りがないかをもう一度見直していく。前年度の引き継ぎの参考等して作られている活動歴を活用しながら、それぞれの校務分掌に取り組んでいく。 ・来年度も、職員全員で協力しながら、組織で動いていく。	

学校関係者評価総括

- ・ 危機管理意識をもって、子どもたちの安心・安全を第一に考え、知・徳・体のバランスの取れた天神川小学校の子どもたちの育成に尽力して欲しい。
- ・ 基礎学力をつけるために、学校、家庭、地域が連携し、共通認識のもと家庭学習等に取り組んで欲しい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ① コミュニティスクール実施に向けて、学校、家庭、地域の連携をさらに深め、課題を共通理解し解決を図る。
- ② 「わかる授業」の創造と基礎基本の確実な定着を図り、さらなる学力向上を目指す。
- ③ 蔵書の電子化を図り、身近に本がある環境をさらに進め、読書習慣の定着を図る。
- ④ 体育行事を通じた体力向上とあいさつ、掃除、整理整頓など基本的な生活習慣を定着を目指す。